

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立少林寺小学校
校長 西村 哲也

中学校区におけるめざす子ども像

ちがいをみとめ、ともに生き、将来の夢と希望に向けて自ら学び続ける子

令和5年度 重点目標

- ・「授業改善の推進」「教育課程の充実」「家庭学習習慣の形成」を相互的に連動させて、子どもの「主体的に学習に取り組む態度」を養い、「自ら考え、実行し、仲間と共に学びを深め合う子ども」を育て、総合的な学力の向上を図る。
- ・「よりよい学級集団」を形成するために、担任と子どもが信頼関係でつながり、子ども間をつなげる取り組みを行う。子どもの人間関係づくりによって、自尊感情の向上と「自律」と「自立」の精神を育む。
- ・自他を大切にし、常に相手の立場になって物事を考え、人の痛みを分かろうとする態度を養い、いじめやあらゆる差別を許さない人権尊重の精神を育てる。
- ・特別支援教育を推進し、「困り感」のある児童の早期発見に努め、障がいの状況に応じた指導を充実させる。
- ・陵西学校群教育目標具現化に向け、人権教育・キャリア教育を中心とした小中一貫教育体制の推進を図る。

「確かな学び」の現状

堺版授業スタンダードによる授業改善および主体的・対話的で深い学びを実現する取り組みを展開することにより、算数においては学力向上の成果が見られた。しかし、国語においては、話すこと、書くこと、読むこと、読書習慣に課題が存在する。そこで、今年度も「国語」を中心とした主体的な学びの実現をめざし、授業改善を中心に、すべての教科の基盤となる「書く力」「話す力」「読む力」の向上に取り組むとともに読書習慣の育成にも取り組んでいきたい。小規模校の特性を生かし、個に応じたきめ細やかな指導による基礎・基本の定着と、課題に対して自分の意見を持ち、友達との意見交流を通して学びを深め、課題解決力の向上を図る。そして、「少林寺っ子ノート」を有効活用することで家庭学習の定着化に取り組んでいきたい。

「豊かな心・健やかな体」の現状

本校は小規模校であり、すべての学年が単学級である。小学校生活の中で一度もクラス替えがないことから、人間関係の固定化という課題がある。そのため、人間関係が崩れると回復に時間がかかるという問題がある。そこで重点目標の一つに「子どもたちの横と縦による人間関係づくり」を掲げ、固定化されがちな人間関係を逆に強い絆として生かし、学級活動や児童会活動、縦割り活動の活性化を通して、子どもの自己有用感を高め、自身の考えや行動に責任を持たせたい。そのために、新型コロナウイルス感染拡大により、活動の工夫や改善は必要であるが、小規模校の特性を生かした「縦割り活動」に年間を通して取り組み、異学年交流の常時化をめざす。また、よりよい学級、よりよい学校づくりに児童が自分たちで考え、活動することにより、自治の精神と主体的な行動力を身につけさせたい。

| 大項目 | 中項目 | 具体目標 | 具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組) | 判断基準 (評価のものさし) | 評価方法 | 評価時期 | 進捗確認 (～12月) | 達成状況(年度末) | |
|-------|-----------|-----------------------------|--|--|--------------------------|------|--|---|---|
| | | | | | | | | 自己評価 | 学校関係者評価 |
| 確かな学び | 総合的な学力の向上 | 基礎的な知識・技能の習得を図る。 | ★朝の読書タイム、読書ノートの表彰などを通して児童の読書活動を充実させる。 | ・読書時間数 ・読書ノートの記録 ・読書表彰状 | ・実施状況 | 2月 | ○ ・各学年、朝の読書タイムをしっかりと行っている。 ・図書室整備の推進(図書の入れ替え、レイアウト、環境整備)により利用率、読書量ともに向上している。 ・高学年にも通算1000冊読んだ児童もいる。 | ○ ・児童の図書館利用率は、学校司書および図書館サポーターとの連携により向上している。しかし、学校アンケート「学校や家でよく本を読んでいる」の肯定的評価は前年度より14%減少した。今後、保護者への図書館利用の実態や家庭での読書週間の啓発を行う必要がある。 | ○ ・学校図書館だけでなく、中央図書館等の図書も新しいものに今後もかえていき、さらなる充実をめざしていく必要がある。図書館整備をサポートしていきたい。 |
| | | | ・わくわくタイムで、漢字や計算ドリルを反復練習して基礎学力の充実を図る。 | ・課題定着確認プリントにおける正答率 | ・課題定着確認プリント結果 | 2月 | ○ ・わくわくタイム(火～金10分間)で反復練習に取り組んだ。 | ○ ・どの学年においても集中して取り組んでおり、基礎基本の定着を図ることができた。 | ○ ・引き続き取り組んでほしい。基礎学力の向上が見られた |
| | 授業改善 | 授業改善を行い、主体的に学習に取り組む態度を育成する。 | ・「少林寺っ子ノート(自主学習ノート)」による家庭学習習慣づくりを行い、主体的な学びを総合的に進める。 | ・家庭学習ノートの提出率70% ・学校評価アンケートにおける肯定的な回答80% | ・実施状況 ・アンケート結果 | 2月 | ○ ・毎日の課題として、全学年において少林寺っ子ノートに取り組んでいる。 ・廊下に各学年の模範となる自主学習ノートを掲示して児童の学習意欲を向上させている。 | ○ ・家庭学習ノートの提出率および学校アンケートにおける肯定的な回答ともに判断基準を上回った。今後はさらなる家庭学習の定着を図るため、児童が取り組みやすい学習内容の明示を行い、主体的な学びの推進に取り組んでいきたい。 | ○ ・少林寺っ子ノートの取り組みをはじめ、家庭学習の定着を今後も図っていく必要がある。模範となるノートを掲示するなど、児童への啓発もはっきりできている。 |
| | | | ・国語科を中心とした主体的な学びによる授業改善を進め、すべての学習の基盤となる書く力や読み取る力の向上をめざす。 | ・校内研究授業 ・日常の授業内容 ・児童のノートの内容 | ・研究授業 ・授業観察 ・アンケート | 2月 | ○ ・10月19日、5年生において国語の公開授業を行った。 ・児童に「書く力」をつけるため、ノート指導を丁寧に行っている。 | ○ ・3つの学年において校内研究授業を行った。成果と課題を明確にすることにより「話す力」「聞く力」の向上が見られた。また、国語辞典の活用にも取り組み、語彙力の向上へとつながった。 ・2つの学年および英語科において公開授業を行った。児童が主体的また意欲的な学習活動を行える手立てを構築した実践を行うことができた。 | ○ ・国語科で培う力はとても大切である。引き続き継続した取り組みをお願いしたい。 |
| | | | ・児童が「自分で考える」「グループで意見を出し合う」「学級全体で意見交流をする」を通して、自分たちで課題解決をする授業の実践を行う。 | ・校内研究授業 ・日常の授業の内容 | ・研究授業 ・授業観察 ・アンケート | 2月 | ○ ・各学年どの教科においても、児童の発言を大切にし、児童間をつなげる発問を工夫している。 ・どの学年もタブレット端末を有効に活用している。 | ○ ・学校アンケート「わかりやすい授業づくりに努めている」においては肯定的な回答が94%であり、授業改善の効果があつたといえる。 ・すべての学年においてタブレット端末を学習に有効的に活用しており、学習内容についての理解力向上へとつながった。 | ○ ・わかりやすい授業づくりを今後も大切に進めていきたい。 |
| | | | ・教科を問わず、児童一人一台のパソコンを有効活用し、児童が興味を持って取り組む授業の実践を行う | ・校内研究授業 ・日常の授業の内容 | ・研究授業 ・授業観察 ・アンケート | 2月 | ○ | ○ | ○ ・タブレットを活用した学習を今後も充実させていきたい。 |

| | | | | | | | | | | | | |
|---|------------|---|--|--|-----------------------------------|-----------------|----|--|---|--|---|--|
| 豊かな心・健やかな体 | 豊かな心の育成 | 心の教育の充実を図る。 | ・道徳の授業をはじめ、すべての教科を通して豊かな心（高い規範意識・豊かな人権感覚・人を愛する心・思いやりの気持ち・命の大切さ等）の教育実践に取り組む。 | ・人権教育・道徳教育の年間計画に基づいた指導。 | ・アンケート | 2月 | ○ | ・道徳の授業はもちろん、すべての教科において人権に対する意識をもって実践を行っている | ○ | ・学校アンケート「命を大切に心や人を思いやる心を育てている」において肯定的な回答は88%であり、すべての学年において人権教育・道徳教育を円滑に進めることができた。 ・月一回のトラヂタイムにおいて縦割り活動を行った。6年生がリーダーシップを発揮して自己有用感および責任感を育むことができた。 ・学校アンケート「挨拶指導に取り組んでいる」では肯定的な回答が90%であるが、児童の挨拶の実態はよくない。今後も粘り強い指導と保護者との連携が必要である。 | ○ | さまざまな教科を通して、今後も人権教育を大切にしたい取り組みを進めてほしい。 ・上級生がリーダーシップを発揮できる場を積極的に設けていることはとても良いことである。引き続き自己有用感を育てる取り組みをお願いしたい。 ・挨拶については、学年によって「できる」「できない」がある。引き続き啓発を進めてほしい。 |
| | | | ●クラスづくりと縦割り活動を通して横と縦の人間関係づくりに取り組み、子どもの自己有用感を高め、考えや行動に自信と責任を持てるようにする。 | ・月1回縦割り活動を実施 ・年間を通したあいさつ指導の実施 | ・実施状況 | 2月 | ○ | ・教室が「居心地のいい場所」になるよう一人ひとりの「もちあじ」を大切に学級経営に努めている。 | ○ | | △ | |
| | | | ・毎日の登下校時におけるあいさつを通して、コミュニケーションの基礎を培う。 | ・毎日の登下校時の様子 | ・実施状況 | 2月 | △ | ・1～3年のあいさつがよい。 | △ | | | |
| | きめ細やかな生徒指導 | 子どもの理解を深め、家庭や専門機関との連携を図り、きめ細やかな生徒指導を推進する。 | ・「いじめアンケート」や「生活習慣チェック」を通して児童の実態把握を行い、家庭と連携しながら、いじめや問題行動の未然防止、早期対応に努め、児童に寄り添った生徒指導の充実を図る。 | ・児童の良好な人間関係の確立 ・生活習慣の改善 | ・実施状況 | 2月 | ○ | ・いじめアンケートを行った。いじめに該当する回答はなかった。 | ○ | ・学校アンケートにおけるいじめ・生徒指導における肯定的な回答は80%を超えているが今後も一人ひとりをきめ細やかに見とり、子どもたちが「明日も学校に行きたい」と思えるような風土を構築していきたい。 | ○ | ・いじめは絶対許されないことである。今後も一人ひとりをきめ細やかに見とってほしい。 |
| | | | ●特別な支援を要する児童の指導にあたっては、学校全体で支援体制を構築する。発達障害理解研修を行い、特別支援教育の充実を図る。 | ・子ども支援委員会 ・ケース会議 ・校内研修会の実施・成果 | ・実施状況 | 2月 | ○ | ・子ども支援委員会は月1回以上行っている。 | ○ | ・学校生活において「困り感」をもっている児童の早期発見に努めた。課題解決へ向けた子ども支援委員会の実施および関係諸機関との連携により、支援体制をスムーズに構築することができた。 | ○ | ・支援学級児童の割合が高いため、人員確保も含め、支援体制を強固に構築してほしい。 |
| | 人権教育 | 人権教育・在日外国人教育 | 人権尊重に根ざした教育の推進を図る。 | ・トラヂタイムをはじめ、学校行事等の様々な場面を通して、国際理解・多文化共生教育を推進し、人の痛みを分かろうとする気持ちを大切にし、いじめや差別を許さない人権尊重の精神を育む。 | ・トラヂタイムにおける多文化共生教育の推進 ・生活アンケート | ・実施状況 ・アンケート | 2月 | ○ | ・トラヂタイムを月1回行った。すべての児童が楽しんで活動している。 ・11月22日に全児童がワールドハッキョに参加した。 | ○ | ・3年生における在日外国人教育の実践を堺市全体へ発表した。次年度は大阪府で発表する。トラヂタイムおよびワールドハッキョにおいて多文化共生の教育を推進することができた。 | ○ |
| ★陵西学校群において「人権教育」「キャリア教育」を推進し、中学校区の教職員連携を浸透させ、これまでの実践を大切にしながら地域の実態に学び、教職員・児童の交流を深める。 | | | | ・中学校区における公開授業 ・4校交流会の実施 | ・実施状況 | 実施時期 | ○ | ・10月25日に陵西中の公開授業を参観した。その後グループに分かれて合同研修を行った。 ・3、4年生が安井小、大仙西小の5年生とともに国際理解教育の合同授業を行った。 | ○ | ・陵西学校群における小中連携・小中連携を大きく推進することができた。今後もさらなる推進に取り組みたい。また、キャリア教育を全学年で取り組んだ。出前授業を毎月複数回行い、子どもたちにとってたくさんのお出掛けを構築することができた。 | ○ | ・学校群における交流活動はとても良い。中学校進学前に他の小学校の子どもたちと関係を築くことができるので、来年度もぜひお願いしたい。 |

校長より（年度末）

本校では令和元年度から国語科を中心とした主体的な学びによる授業改善を進めてきた。今後も各学年において取り組みを継続させ、「書く力」および「読み解く力」の向上をめざしていきたい。さらに次年度からは、人権教育のさらなる充実を図るため、「在日外国人・国際理解教育」「キャリア教育」に焦点をおいた教育活動を展開していきたい。児童の「差別を許さない心」「社会の中で生きていくために不可欠な能力」を育てていきたい。

学校関係者評価者から（年度末）

めざす子ども像に向け、学校はさまざまな教育活動を行っている。今後も地域と学校が一丸となって取り組み、子どもたちの成長へとつなげていきたい。